

2022 年度水稲関係生育調節剤試験判定結果

(公財) 日本植物調節剤研究協会 技術部

2022 年度水稲関係生育調節剤試験成績検討会は、2022 年 12 月 16 日(金)に、Zoom を用いた Web 会議において開催された。この検討会には、試験場関係者 32 名、委託関係者 37 名ほか、計 86 名の参集を得て、健苗育成を目的としたもの 2 剤(適用性 13 点)、登熟向上を目的としたもの 3 剤(適

用性 9 点)、倒伏軽減を目的としたもの 1 剤(適用性 4 点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

2022 年度水稲関係生育調節剤試験 判定

< 健苗育成 >

No.	薬剤名 有効成分 [委託者]	ねらい	判定	判定内容
1	NF-171フロアブル ピカルプトラゾクス:10.0% [日本曹達(株)]	健苗育成/移植直前処理での移植後の 活着促進効果の検討	実・継	実) 根部の生育促進および移植後の活着促進 ・播種時または発芽後(緑化始期) ・1000倍液500mL/育苗箱 2000倍液1000mL/育苗箱(発芽後処理を除く) ・土壌灌注処理 移植後の根部の生育促進および活着促進 ・移植直前 ・2000倍液500mL/育苗箱 ・土壌灌注処理 継) ・2000倍、500mL/育苗箱処理での効果薬害の確認(播種時、発芽後) ・1000倍、500mL/育苗箱処理での効果薬害の確認(移植直前)
2	SB-9233粒 ダイムロン:1.0% [(株)エス・ディー・エス バイオテック]	健苗育成/育苗箱処理による根部の生 育促進効果の検討	実・継	実) 根部の生育促進 ・緑化期 ・50g/育苗箱 ・育苗箱に均一散布 継) ・効果・薬害の確認(播種時覆土前) ・年次変動による効果薬害の確認(緑化期)

< 登熟向上 >

3	NGR-072粒 イソプロチオラン:12.0% エチプロロール:1.5% [日本農薬(株)]	登熟向上/①高温登熟下における白未 熟粒等発生軽減効果の検討 ②割れ籾発生軽減効果の検討	実・継 (従来 通り)	実) 登熟向上 ・出穂前10~20日 ・4kg/10a ・湛水散布 継) ・高温登熟下での品質向上(白未熟粒等発生軽減)効果の 確認 ・割れ籾発生軽減効果の確認
---	---	--	-------------------	---

< 登熟向上 >

No.	薬剤名 有効成分 [委託者]	ねらい	判定	判定内容
4	イソプロチオラン粒 イソプロチオラン:12% [日本農薬(株)]	登熟向上/3kg/10a処理での効果・葉害の検討(葉量拡大) ①登熟向上効果の検討 ②高温登熟下における白未熟粒等発生軽減効果の検討 ③割れ籾発生軽減効果の検討	実・継 (従来 通り)	実) 登熟向上, 高温登熟下での未熟粒の発生軽減 ・出穂10~20日前 ・4kg/10a ・湛水散布 継) ・4kg/10a処理での効果の変動要因について ・3kg/10a処理での効果・葉害の確認
5	イソプロチオラン1kg粒 イソプロチオラン:36% [日本農薬(株)]	登熟向上/①高温登熟下における白未熟粒等発生軽減効果の検討 ②割れ籾発生軽減効果の検討	実・継 (従来 通り)	実) 登熟向上 ・出穂10~20日前 ・1kg/10a ・湛水散布 継) ・高温登熟下での品質向上効果(白未熟粒等発生軽減)の確認 ・割れ籾発生軽減効果の確認

< 倒伏軽減 >

6	SSDF-18粒 ウニコナゾールP:0.0040% N-P-K:18-12-12 [住友化学(株)]	倒伏軽減/直播水稻での側条施用における倒伏軽減および葉害の検討	継	継) 効果・葉害の確認
---	---	---------------------------------	---	-------------